

2012/12/20
第 44 号
(24 年 12 月号)

しののめ



長野県総合教育センター通信

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4
TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

カフカの『城』

教職教育部長 大井 基成

各校・各機関に対しまして、今年一年、総合教育センターの各事業にご理解とご協力をいただいたことに感謝申し上げますとともに、新しい年が実り多き年となりますことを祈念しております。

さて、当センターにかかってくる電話のやり取りをひとつ紹介します。「センターの近くまで来ているのですが、道が分からなくなってしまいました。ここからの行き方を教えてください。」

「今、どちらにいますか？途中でセンターは見えましたか？」

「それが、自分がどこにいるのか分からなくなってしまいました。センターは、先程は見えていましたが、近づいたら見えなくなってしまいました。」

私は、以前、専門主事としてこちらで勤務していました。当時もこうした電話がかかってくるしてきましたが、今年度数年ぶりに戻ってみて、教育委員会関係以外の機関や一般への研修室貸出が増えているためか、上記のような電話も多くなった気がします。私は、その電話のやり取りを聞くたびに、カフカの小説『城』を思い起こしています。

カフカといえば、『変身』が有名ですが、『城』も彼の代表作で、ただし、未完の上長編かつ内容も堂々巡りの態であるため読者泣かせの作品となっています。主人公のKは「城」から測量技師として雇われ(たと称して?)、「城」に行こうとします。「城」は確かに見えているのですが、結局たどり着くことができないまま話が進んでいきます。

センターについては、何とか到着してもらっています。地理的にわかりづらい所に位置しているのは確かなので、案内方法等について一層の工夫が必要だと思っています。それとともに、否、それ以上に気に留めるべきこととして、「城」に対して地理的にだけでなく、様々な支障でKの接近が阻まれるのと同様に、精神的にも、例えば教育課題のニーズにおいて、センターと先生方との間が乖離してしまわないように注意したいと思っています。

私は、センターの役割として二つを念頭に置いています。一つはバックヤードとしての役割です。当然ですが、教育の現場は、学校です。センターは学校という現場が生き生きとなるように、あくまで裏方としてお手伝いすることが大切です。もう一つは、やや勇ましい語句ですが、橋頭堡としての役割です。先進的な技能や情報及び理論等について、いち早くキャッチし、現場に示すことができるようにしなければなりません。日々の先生方の実践において“自分がどこにいるのか分からなくなってしまいました”ということが無いように、今後とも役立っていきたいと思っています。



★日本女子大との連携事業「リスクマネジメント研修」
(平成 25 年 1 月 15 日(火), 16 日(水))
たくさんのお申込みありがとうございました。

★「長野県総合教育センター研究発表会」
(平成 25 年 2 月 22 日(土)) 2 月 8 日まで受付けています。
次ページまたはセンターHPをご覧ください。

多目的ホールの Xmas ツリー



伸ばそう信州の教育

受付中です!!

～学校の教育課題に対応する教員の指導力・組織力向上のために～

平成 24 年度 長野県総合教育センター研究発表会（第 2 次案内）

総合教育センターが取り組んでいる学校教育に関する研究成果の発表により、県内の各学校・教育関係機関等における研究活動の充実、教職員の指導力向上に資することを目的として開催します。
県内外の小・中・高・特別支援学校の教職員、教育関係機関等の職員の皆様、ぜひ、ご参加下さい。

- 1 日 時 平成 25 年 2 月 22 日（金）
- 2 会 場 長野県総合教育センター 講堂ほか
〒399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4
TEL:0263-53-8802 Fax:0263-51-1290 <http://www.edu-ctr.pref.nagano.lg.jp/>

3 日 程

時間	内 容			会場	
9:40～9:50	開会行事			講堂	
9:50～10:50	講演「伝わる話し方、言葉と考える力」 講師 風見 雅章 (NHK 日本語センター部長 NHK エグゼクティブアナウンサー)			講堂	
10:50～11:00	休 憩				
11:00～12:00	全体発表 2 本 ①「思考力・判断力・表現力等の評価にかかわる研究調査 ～適切な「評価規準」と「評価方法」に基づく「見とどけ」のあり方～【教科教育部】 ②『『情報モラル教育』教材の充実と活用法に関する研究』【情報産業教育部】			講堂	
12:00～13:00	昼食（食堂を開放）				
13:00 } 13:50	第一分科会	ア「思考力・判断力・表現力等の評価の実際」(各教科)【教科教育部】	イ 特別支援教育 ①子どもが学びやすい環境にするために ②「読み書き」に困難のある子どもに気づくために 【生徒指導・特別支援教育部】	ウ 産業教育長期研修 ☑「射出成形技術の課題研究での活用について」 ☒「プログラミング学習としてのJava言語の研究と教育利用」	各会場
13:50～14:00	休 憩				
14:00 } 14:50	第二分科会	エ「信州 Basic」を活用しよう【教科教育部】	オ 生徒指導 ①子どもとの関係づくりを振り返るために ②子どもの SOS を見逃さないために 【生徒指導・特別支援教育部】	カ 産業教育教材開発研究 ☒新科目「農業と環境」における地域資源を活用した教材開発 ☒①デジタルメモカードの開発と活用 ②パワール CAD を用いた教材の研究	各会場
14:50～15:00	休 憩				
15:00 } 15:50	第三分科会	キ「総合教育センターにおける悉皆研修の研修要素に係る調査研究」【教職教育部】	ク 研修派遣教員の発表 ①「生徒指導における支援ネットワークの構築」 ②「いじめ・不登校を未然に防ぐ豊かな人間関係づくりの在り方」 ③「日常の授業に生徒指導の機能を生かす」	ケ 産業教育教材開発研究 ☑工業技術教材研究 ☒教科「商業」における情報リテラシーとセキュリティ	各会場
				生徒実習、生徒研究発表会、先端技術研修発表会、産業教育事業報告会 ～16:30	

- 4 参加申込み <締切り 平成 25 年 2 月 8 日(金) 必着>
長野県総合教育センターホームページ(<http://www.edu-ctr.pref.nagano.lg.jp/>)から申込書をダウンロードし、郵送または Fax(0263-51-1290)でお申し込みください。

- 5 その他
参加費用は無料です。県内の教職員の皆様の旅費については、センター研修講座への参加と同様に扱います。

長野県総合教育センター 企画調査部
部長 高野 正延 担当 吉越 秀之
TEL 0263-53-8802 FAX 0263-51-1290
E-mail kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

研修講座探訪①

生徒指導研修 連携と危機対応

「子どもの心のトラブルと危機対応のあり方」～医療機関との連携～

11月13日(火)実施

信州大学医学部附属病院 子どものこころ診療部で、子どもたちの心の成長を支えていらっしゃる原田 謙先生を講師に研修講座「子どもの心のトラブルと危機対応のあり方」を実施しました。近年の児童生徒を取り巻く問題（いじめ、不登校、暴力行為等）は、子どものこころの成長と大きく関わっているため、思春期に起こる心の病気について理解し、一般の思春期に見られる症状との違いについて学びました。演習では、岡谷工業高校の実践発表をもとに「医療と教育の連携」において、大切なポイントについてグループで意見交換しました。



「人の目が気になる」という被注察感について・・・

「人の目が気になる」「人の目が怖い」と訴える子どもたちは通常でも思春期の6割の子に認められるそうです。その中で、医療と連携を行う必要のある観察ポイントは「気になる対象がクラスメートや友達に限定されていない場合」や「過去に経験のない、自分自身の知らない体験が浮かんでくる」等の場合だそうです。

グループディスカッションの様子(左上：原田講師)

◆受講者の感想から◆

- ・職員研修に超多忙な医師が講師として来ていただけるのは、すでに学校と医療が連携の道へ進んでいると明るい気持ちになりました。
- ・診断名だけで決めつけるのではなく、その子のありのままの姿をしっかりと見ていくことが大切だと感じました。

産業教育研修講座「マイコン制御」

12月11日(火)実施

コンピュータのみならず、家電製品や携帯端末さらにはおもちゃまで、電子制御(マイコン制御)で動作する機器が多くあります。工業高校ではこれらの制御技術の学習について、回路の設計・開発からソフトウェアの組み込みまでの専門的で総合的な知識・技術・技能を身につけるべく、実習や課題研究を中心として取り組んでおり、多くの実践発表がされています。

12月11日(火)、身近な生活環境測定と測定結果の表示システム構築を題材に、温度計測回路の設計製作・マイコンへの組み込み環境の構築・プログラミングのためのアナログ-デジタル変換手法の習得を目標として、「マイコン制御」講座を実施しました。

午前中は組み込み制御の基礎と開発環境の構築・C言語プログラミング演習を行い、マイコンを用いた信号制御を行いました。午後は温度計測回路の設計製作と表示回路の製作を行い、室温を測定して表示する制御プログラムの作成を行いました。時を忘れるほどに集中して製作した回路にプログラムを書き込み、きちんと動作した際には受講者同士で拍手をしあうなど、ものづくりの楽しさを再認識する機会にもなりました。

受講者からは、「身近な題材として実習に生かせる」「プログラムの作り方がわかった」「実際に製作ができてとてもよかった」といった感想があげられました。



研修講座探訪②

産業教育研修講座「組換え実験から学ぶ食の安全」

11月15日(木)、16日(金)実施

11月15日～16日の二日間、「組換え実験から学ぶ食の安全」講座が開講されました。農業関係者ばかりでなく工業、理科の担当者も参加され関心の高さがうかがわれました。今年も長野県農業大学校 丸田一成教授を講師にお迎えし、遺伝子組み換え技術の正しい理解と組み換え農産物・組換え作物の安心・安全について講義や実験から学ぶことができました。実験は生徒にDNAについてわかりやすく教えるための実験キットを用いて2つ行いました。実験1の「pGLO バクテリア遺伝子組換え」は大腸菌にオワンクラゲの遺伝子を導入し大腸菌を光らせることです。実験2の「DNA Fingerprinting」は制限酵素により切断されたDNA断片を電気泳動法により解析することです。



(実験1 pGLO バクテリア遺伝子組換え)



(実験2 DNA Fingerprinting 電気泳動)

実験は、DNAや遺伝子組換えといった難しい内容でしたが、丸田先生のユーモアあふれる話術と丁寧で分かりやすい説明によって、楽しく学ぶことができました。また、講義の中で長野県におけるバイオテクノロジーを活用した農作物の品種改良の取り組み状況、GM（組換え）農産物の現状・課題等にも触れ、正しく理解することができました。

〈受講者の感想から〉

- ・二日間とも興味深く取組め、とても楽しく実験ができた。
- ・なかなか経験できない貴重な体験ができた。
- ・全く知らなかったバイオの事が少し理解できた。
- ・理解しやすい講義で大変勉強になった。
- ・生徒実験ができる様に考えていきたい。
- ・今後、授業などでも生徒に伝えていきたい。
- ・授業の中で食の安全や遺伝子組換えについて触れていきたい。

今からでも間に合う研修講座(1月以降開講の講座)

平成24年度 長野県総合教育センター 追加募集講座一覧表					平成24年12月20日 現在
講座番号	講座名	対象	開始日～終了日	募集人数	講座PR
今年度の追加募集もあとわずかとなりました。ご希望の方はお早めに。					
3-1-08-27	実践！美術の題材開発	中高特	1月24日	3	題材についての情報交換から、新たな題材を創り出しましょう。
3-1-09-06	幼児のふれ合いと家族	中高特	1月22日	10	幼児とふれ合う直接的な体験の指導の工夫や題材展開について深めましょう。
3-4-12-22	射出成形技術と金型	高(工)	1月24日～1月25日	4	射出成形機の取り扱いを中心に、しくみや金型の構造について学びます。
【特別講座】センター研究発表会 (最新情報は随時当センターHPで紹介します。)					
5-1-01-01	センター研究発表会	幼小中高特	2月22日		大会テーマ 「伸ばそう信州の教育～学校の教育課題に対応する教員の組織力・指導力向上のために～」

※追加募集は10日前まで受け付けています。センターHPで確認して電子申請で申し込みをお願いします。

生徒研究発表会

12月15日(土)総合教育センターを会場に、県下の専門高校・総合学科高校25校から234名の生徒、関係者の参加のもと、第9回生徒研究発表会が行われました。この発表会は、日頃の学習成果を発表することにより、表現力やコミュニケーション能力の向上、学校・学科の枠を超えた学びや交流を通して学習意欲の喚起を目的に毎年開かれているものです。

講堂のステージ発表では、農業・工業・商業・家庭・福祉の各分野で16団体が学習成果を発表し、交流会では32団体が作品展示・実演・販売実習等を行いました。地域と連携した発表が多数あり、研究が学校内で終わることなく実社会での活用を視野に入れたものとなっていました。また、学科間の協働の可能性を感じさせる研究もあり、今後の専門高校の取り組みに期待を感じさせるものでした。来年は10回を迎え、より多くの方々に専門高校の取り組みを知っていただけるよう工夫していきたいと思っています。参加者および関係の皆様、ありがとうございました。

来賓祝辞



ステージ発表



作品展示・実演・販売

